

学 会 消 息

◇日本都市社会学会

日本都市社会学会第2回大会が4月2日、3日、多摩動物園に近い「明星大学」で開催され、本学からは倉田和四生教授、山本剛郎教授の二人が参加し、司会（倉田）とコメンテーター（山本）の役割を果たしました。二日目のシンポジウムのテーマは「シカゴ学派の再考」で伝統的遺産について議論しましたが、同時に研究発表では「新しい都市理論」や「都市文化論」など新しい理論の模索がなされました。本学会はまだ新しい学会ですが、専門家の集まりらしい密度の高い議論がなされたと思います。

第3回大会は関西学院大学が主催校となって昭和60年4月4・5・6日（2泊3日）に千刈セミナーハウスで開催されます。

◇関西社会学会

第35回関西社会学会は、昭和59年5月26日(出)、27日(日)の両日、奈良女子大学で開催された。この学会で本学の萬成博教授は、第一日の「シンポジウムの部会」「社会学を考える—社会事象の計測・観察・解釈—」で、遠藤惣一教授は、「労働・職業」の部会、加藤春恵子教授は、第二日の「女性」の部会でそれぞれに司会を担当した。

また、中野秀一郎教授は、第一日の「労働・職業」の部会で、「医師と医療における連続と変化—O市・K市における医師意識調査の報告に寄せて—」について研究発表し、真鍋一史教授は第二日の「数理」の部会で、「L. Guttmanの諸法則とその追試」について同発表を行った。

なお、本学会は、シンポジウムのテーマ、「社会学を考える」に多くの関心が集まり、議論が展開された。

◇日本新聞学会

1984年度春季研究発表会は、6月8日(金)、9日(土)の両日、東北学院大学で開催された。個人研究発表の他、シンポジウム「災害報道」およびワークショップ「衛星通信時代のメディア状

況」が開かれた。本学部からは津金沢教授が出席した。

◇日本基督教社会福祉学会

第25回日本基督教社会福祉学会は、「生と死」愛における技術とは—生命にまむかう基督教社会福祉の課題—をテーマとし、1984年6月8日(金)・9日(土)の両日、関西学院大学千刈セミナーハウスにおいて開催された。

第一日目、開会礼拝に引きつづき基調講演「愛と技術」にはじまり分科会（非行・家庭・老い）が行われた。第二日目はパネルディスカッションが活発になされ午後1時解散。韓国学会の7人の出席者を加え合計99人の参加者を得て意義深い大会を終了した。

◇日本カナダ学会

第9回年次大会は1984年9月15日(土)、16日(日)の両日、関西学院大学で開催。本学部からは西尾朗、倉田和四生、中野秀一郎の3教授が出席。倉田教授は自由論題部会で「トロントの日系社会とヘリテージの保持」と題する研究発表を、西尾教授は人文部会での研究発表を司会した。

◇日本教育心理学会

日本教育心理学会第26回総会は、1984年9月28日(金)から30日(日)にかけて、京都大学の主催により、京都会館と伝統産業会館において開催された。本学からは田中国夫教授、岩淵千明氏(現、帝国女子短期大学)の共同研究で、「試験の成績に対する原因帰属—高校生の場合—」を岩淵千明氏が発表し、また、田中国夫教授、広沢俊宗氏の共同研究で、「異なった関係における孤独感尺度の研究」を広沢俊宗氏が発表した。

執筆 者 紹 介 (掲載順)

N. ルーマン	西ドイツ, ビーレフェルト大学社会学部教授	加藤 春恵子	社会学部教授
茨木 竹二	東京家政大学助教授	牧 正英	社会学部教授
ハリー K・西尾	トロント大学教授	西山 美瑤子	社会学部教授
大道 安次郎	名誉会員	広沢 俊宗	社会学部大学院博士課程後期課程
定平 元四良	社会学部教授	田中国 夫	社会学部教授
倉田 和四生	社会学部教授	上田 博子	社会学部学生
山路 勝彦	社会学部教授	中野 秀一郎	社会学部教授
山本 剛郎	社会学部教授	真鍋 一史	社会学部教授
嶋田 津矢子	社会学部教授	柳 原 佳子	社会学部大学院研究員

社会学部研究会々員

会 長	武 田 建				
評 議 員	津金 沢 聡 広	杉 山 貞 夫	牧 正 英		
	中 野 秀 一 郎	村 川 満	高 田 真 治		
会 計 監 査	田 中 国 夫	山 本 剛 郎			
書 記	小 倉 克 秋				
名 誉 会 員	青 山 秀 夫	大 道 安 次 郎	藤 原 恵		
	本 出 祐 之	小 関 藤 一 郎	蔵 内 数 太		
	岡 村 重 夫	清 水 盛 光	枋 原 知 雄		
			(ABC 順)		
普 通 会 員	杉 原 方	西 尾 朗	定 平 元 四 良		
	嶋 田 津 矢 子	萬 成 博	領 家 穰		
	倉 田 和 四 生	半 田 一 吉	遠 藤 惣 一		
	佐々木 薫	森 川 甫	張 光 夫		
	中 山 慶 一 郎	J. A. ジ ョ イ ス	宮 田 満 雄		
	船 本 弘 毅	春 名 純 人	紺 田 千 登 史		
	西 山 美 瑤 子	安 田 三 郎	真 鍋 一 史		
	加 藤 春 恵 子	山 路 勝 彦	鳥 越 皓 之		
	安 藤 文 四 郎	芝 田 正 夫	浅 野 仁		
	芝 野 松 次 郎				

関西学院大学社会学部研究会会則

第 1 条 本会は関西学院大学社会学部研究会とよぶ。

第 2 条 本会は社会学および隣接諸科学の研究ならびに会員相互の交流を計ることを目的とする。

第 3 条 本会は上記の目的を達するために次の事業を行う。

- 1 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」の発行。
- 2 研究会および講演会の開催。
- 3 研究叢書の刊行。
- 4 その他本会の必要と認める事業。

第 4 条 本会の会員は次の 3 種とする。

- 1 名誉会員 本会の特に推薦するもの。
- 2 普通会員 本会社会学部専任の教授、助教授、講師および助手。
- 3 賛助会員 以上の外申込のあったもの。

第 5 条 普通会員は年額 19,200 円、賛助会員は年額 10,000 円以上の会費を納めなければならない。納付済の会費は返還しない。

第 6 条 本会員および本学社会学部大学院生・学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の講読費は昭和 56 年度入学生より年額 1,600 円とする。

第 7 条 本会に次の役員をおく。

- 1 会長（1 名）は、社会学部長をもってあてる。
- 2 評議員（6 名）は、普通会員の中から互選し、本会の運営に当る。
- 3 編集、会計、庶務の各委員は、評議員の中から互選する。
- 4 会計監査（2 名）は、普通会員の中から互選する。
- 5 書記は、社会学部事務長に委嘱する。

第 8 条 本会役員の任期は 2 年とする。重任を妨げない。

第 9 条 本会会計年度は 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終る。予算・決算は総会の承認を得なければならない。

第 10 条 総会は年 1 回とし、本会の重要事項を議決する。臨時総会の開催を妨げない。

第 11 条 本会は事務所を本学社会学部におく。

第 12 条 本会会則の変更は総会の議決によらなければならない。

59年12月20日 印刷

59年12月25日 発行

編集発行人 武 田 建

発 行 所 関西学院大学社会学部研究会

〒662 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798)(53)6111(代表)
(内線) 4212

印 刷 所 尼崎印刷株式会社

〒660 尼崎市北大物町25

電話 (06)481-0707(代)

KWANSEI GAKUIN

SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 49

December 1984

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
